



「まち全体が学びの場」活動に関わる 5人の思いを聞きました



写真左から

まち全体が学校コーディネーター
くらおかす が こ
倉岡壽雅子(辻の城団地)

令和3年4月から現職。ヘルスサポーターとしての活動をきっかけに、木山中家庭科の授業では食生活改善推進員として、仲間と共にゲストティーチャーを務めている。

まち全体が学校コーディネーター
まつ のりよう こ
松野良子(市ノ後)

平成27年、31年ぶりに益城町に戻り、令和3年4月から現職。地域の人に声を掛けて集まった10人で見守り隊を結成。益城中央小通学バスで登下校する児童の見守り活動を行う。

広安小/
益城中学校運営協議会 会長
やまうちあきら
山内明(惣領3町内)

広安小、益城中でPTA会長を歴任。平成20年に広安小で「おやじの会」を立ち上げ、在学中の児童の親だけでなく、多くの人が学校の見守り活動ができる仕組みを作った。

木山中校長
かたしまなお き
堅島尚記

平成31年4月から現職。赴任当初から、ボランティア活動を含め学校運営協議会を中心とした町との交流・連携に取り組む。学校と地域の交流を深めるため、生徒たちの校外学習も積極的にやっている。

地域おこし協力隊
いのした ゆり か
井下友梨花

熊本地震直後の平成28年5月から教育NPOの一員として本町に入り、放課後の学習の場の提供や、職場体験学習などの支援を実施。平成31年4月から現職として、コミュニティ・スクールの推進などに携わる。

あいさつから生まれる輪

井下 まずは全ての学校で取り組んでい「あいさつ運動」についてお話ししたいと思います。

私が益城町に来て間もない頃、ある高校生から「中学時代を振り返ってみると、通学路でいろんな人とあいさつを交わすのが心の支えだった」という話を聞きました。うまくいかないことがあっても帰りで地域の人が「おかえり」と声を掛けてもらったことで、気持ちが和らいでいたそうです。でも、「地震後はスクールバスで登下校しなければならなかったり、住居移転で通学路の景色が変わったり、触れ合いが少なくなって残念だ」と言っていたんです。それを聞いて、そういった目に見えないものを取り戻すことを、意識して取り組んでいこうと思いました。

松野 スクールバスの見守りをする時も、必ずあいさつをします。名前も何年生かも知りませんが、あいさつを交わしています。ただ、知らない人同士であいさつをするには、小さな勇気がいりますよね。でも先週、中学生と小学生が道ですれ違う時にあいさつを交わす場面を目にしました。その小学生に「今あいさつしたね。どっちからしたの？」と聞くと、「私からしました」と言っていました。

あいさつをすると、その場の雰囲気が良くなりますよね。町全体ですると町の雰囲気が変わるのではないかと思います。